

地域学校協働連携NEWS

～田島子供歌舞伎～ 田島小学校

12月2日(金)に田島小学校の「田島子供歌舞伎」を訪問しました。4日(日)の発表に向けて、本番の舞台である御蔵入交流館文化ホールで3年生がリハーサルを行いました。



9月から指導してきてくださった3人の先生方にごあいさつをして、保護者のみなさんにも協力してもらいながら着付けスタート



「歌舞伎は総合芸術です。役者も裏方も、みんなが心をひとつにしないと、決していいものにはなりません。」花柳貴答さんは、毎年、時期になると東京から田島地域に通い、10年間、歌舞伎の指導を続けてきました。「サッカーで、ゴールを決めるのは1人。ラグビーで、トライを決めるのも、たった1人です。ですが、そのゴールやトライは、チームメイトやスタッフが自分の持ち場で役割を果たしてはじめて生まれるもの。毎年、歌舞伎の稽古を通して、チームワークの大切さや、主役だけでなく脇役こそ大切なのだということを子供たちに伝えようと心がけています。」花柳さんの思いが届き、リハーサルの間にも、子供たちの心はひとつになっていきました。



子供たちが楽屋で衣裳や髪形を整えている間に、文化ホールでは、業者のみなさんによる舞台セットが着々と進んでいきます



いざ出陣! 「緊張するけど楽しみです」 練習を積み重ねてきた成果が表れ、リハーサルは流れるように展開していきました



「見に来てくれた人たちに喜んでほしい」 同じ目標に向かって、それぞれの持ち場で役割を果たそうとする姿がありました



「『今、踏み出さない』 そう思って、迷わず協力することに決めました。」義太夫協会の鶴澤弥吉さんは、20年前、突然持ちかけられた田島地域での歌舞伎指導の依頼に、「担い手が失われてしまう」という切実さを感じ、引き受けることにしました。鶴澤さんは、東京都を中心に、石川県、岐阜県など、日本各地で指導をされていますが「人々の純粋さ。田島の人たちは、親も子も、純粋さが他所と比べて圧倒的に違うと感じます。往復8時間かけても、『歌舞伎づくりに立ち会いたい』と思わせる素晴らしさが、田島にはあるんです。それは、この自然の美しさが育んでいるような気がします。」と、20年もの間、指導を続けてこられた理由を、三味線を手に話してくださいました。